



みのる法律事務所
第 2 9 2 号
平成 2 6 年 8 月

みのる法律事務所
弁護士 千田 實

〒 021-0853

岩手県一関市字相去 57 番地 5

TEL : 0191-23-8960

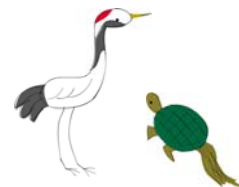
FAX : 0191-23-8950



みのる法律事務所 <http://www.minoru-law.com/> [✉ minoru@minoru-law.com](mailto:minoru@minoru-law.com)



長生きを楽しむコツ その3 — 人を楽しむ



○楽しさは人との^{かか}関わり合いの中にある

生きていて、一番の楽しさは、人との関わり合いの中から生まれてきます。どんなに健康だって、物質的に恵まれていたって、どんなに金があったって、一人では何も面白くありません。誰かと一緒にゴルフができ、旅行ができ、飲んだり食べたりできるから、楽しいのです。人から褒められたり、人を好きになったり、人から好かれたりするから、楽しいのです。一緒に喜んでくれる人がいるから、頑張れる^{がんば}のです。一緒に泣いてくれる人がいるから、立ち直れるのです。人生において最も楽しいことは、人間関係の中にあることは間違いありません。

○孫と遊べる特権



夏休みになり、「孫」が来てくれました。「孫は、目に入れても痛くないほど可愛い」と言いますが、本当です。長女のところの3歳の孫娘に「ジッチ」と呼ばれると、それだけで昇天しそうです。長男のところの1歳半の男の子が、手掴みで美味そうに肉にかぶりついている姿を見ていると、「元気な子だ。ヨカッタ」と自分が食べている以上に美味しく感じます。こうして孫と楽しい時間を共有することは、長生きしなければできません。どんなに健康でパワーがあっても、これだけは若い者にはできません。これだけは年を取らなければできません。長生きした者の特権です。

新・憲法の心、黄色い本、いなべんの本は、出版社・株式会社エムジェエムの他、下記書店でも好評発売中です。

宮脇書店気仙沼本郷店 〒988-0042 気仙沼市本郷 7-8 TEL: 0226-21-4800
amazon.co.jp® <http://www.amazon.co.jp/> ~ 送料無料 ~



○昔話ができる特権

先日、共に司法試験を目指して勉強した仲間と約50年振りに会うことができました。彼がいなければ、私は司法試験に合格することはできませんでした。私は彼のお陰で、彼の方が実力は上でしたが、彼より先に合格することができました。酒を酌み交わし、50年ほど前の昔話に花が咲きました。彼の話では、「先に合格した者達が、私には是非合格してもらわなければならないということで、連れ込み旅館の一室を借りて一緒に勉強してくれた。学生服を着た男達が、何人も白昼連れ込み旅館に出入りしていたので、旅館の主人をはじめ、周りから変な目で見られた」と言って大笑いとなりました。その中に私も居たと言って、彼は感謝の言葉を申し述べてくれました。私の方こそ、「彼のお陰で合格できた」との思いで一杯でした。彼が陸軍中將の孫であることを、今回初めて知りました。大いに話が弾み、彼は最終の東北新幹線に乗り遅れそうになるほどでした。

50年も昔の友人です。まさに「オールド・フレンド」(古きよき友)です。このオールド・フレンドと共に思い出話をする機会は、長生きしなければ得られません。昔話に笑い、そして涙するのは、老人の特権です。

○老人の特権をフルに使うためのコツ

「人生において一番楽しいのは、人との関わり合いの中にある」と述べました。それは生まれてから死ぬまでの間、いつでも同じであろうと思います。その意味では、特に「長生き」と関わりがあるというわけではありません。ですが、「孫」と「オールド・フレンド」は、長生きした者の特権です。このような特権を与えられた高齢者としては、この特権をフルに使わなければ損です。この特権をフルに使うことは、長生きを楽しむコツの一つです。

高齢者となって医療費が安くなるという特権は、高齢者となれば誰でも無意識のうちに、月に何回も使っています。病院に行くたびに、「国民健康保険高齢受給者証」を出せば、その特権は一律に活かされます。気持ちの持ち方も、特別なコツも不要です。

ですが、「孫」や「オールド・フレンド」と楽しい時間を共有するという特権は、使う者の意識によって、心の持ち方によって、その中身は変わってきます。孫と接する時には、「孫とこのような時間を持てるのは、長生きしたお陰だ」という思いと、「この年になったら、いつまでもこういう時間は続かないかもしれない」という一期一会の思いで、孫との時間を楽しむことが大事です。確かに孫はうるさく、長い時間お相手をするのは体力的にきついこともあります。



うるさくて、「何とかならないか」ということもあります。しかし、「孫と一緒にいられるということは、長生きしたお陰だ」という思いで、長生きに対して感謝することが「長生きを楽しむコツ」だと思います。

オールド・フレンドと会って、「あの頃はああだった、こうだった」と言い合えるのは、お互いに長生きしているからこそです。昔話は「知音」、つまり、互いをよく知った友がいなければできません。オールド・フレンドと昔話ができるということは、自分も相手も長生きができているからこそです。

高齢者が2人で昔話を楽しめば、喜びは二乗倍になり、「長生きの楽しみの二重奏」となります。3人集まれば「三重奏」、4人集まれば「四重奏」となり、盛り上がります。同級会や同窓会となれば、楽しみの「オーケストラ」となります。しみりと昔話を楽しみたい時は、中国の故事に倣って2人だけで琴の音を楽しむような時間もまた格別です。私は、オーケストラよりも琴の音の方が好きです。じっくりと知音と語り合う時間が好きです。先日のオールド・フレンドとの一席は、彼と私と妻の3人だけでしたが、話が盛り上がり、心に深く刻み込まれました。いい時間でした。

○人を楽しむコツは「心」

「長生きを楽しむコツ」シリーズの第3弾「人を楽しむ」は、心の持ち方にあります。「孫と一緒に嬉しい」、「オールド・フレンドと昔話ができる嬉しい」と思い、「あいつは、孫も見られずに逝ってしまった」、「あいつは、昔話を語れぬまま逝ってしまった」と早世した仲間を思い、「俺は、運の良い人間だ。孫と一緒に遊んでいる。古きよき友と語り合っている」と、感謝の心を持つことです。こう考えれば、「孫」はさらに愛おしくなり、「オールド・フレンド」は、もっともっと大事な存在になります。

先月号で「金を楽しむ」と書いたら、高校時代の同級生でいつでも心の支えになってくれている親友から、「金のない人の楽しみ方を教えてくれ」と言われてしまいました。その質問に答えなければ、と考えていましたところ、タイミング良く、「孫」と「オールド・フレンド」と楽しい時間を共有するという幸運に恵まれました。またまた、

ありがたや あゝありがたや ありがたや
巡り会えた いい時 いい人

です。「俺は、ホントに、運のいい男だ」と心の底から思います。どうも年を重ねるごとに、ラッキーが舞い込んでくれるようです。感謝、感謝です。合掌!!





『新・憲法の心』

第12巻 戦争の放棄（その12）は、『**愛国心**』というタイトルです。

「チン オモウニ ワガ コウソ コウソウ」、「ギョメイ ギョジ」と得意満面で繰り返す中年男性がいました。少し頭が弱いと言われている人でした。私が小学校低学年の頃ですから、昭和24、25（1949、50）年頃のことです。その後この言葉を耳にすることは、ほとんどありませんでした。誰も口に出したい言葉ではありません。「天皇陛下万歳」と叫んで死んでいった、日本国民や兵士や若き特攻隊員等が連想されるからです。そして、その言葉は「**愛国心**」という、忌まわしい言葉を連想させるからです。

ところが、第一次安倍政権になってから、突然「愛国心」とか、「国を愛する心」という言葉が、政治の世界の表舞台に出てきました。なんと、第一次安倍政権下で「教育基本法」が改正され、教育基本法の中に「国を愛する心」が書き入れられたのです。「これは危ない。戦前の軍国主義に戻りそうだ」という思いに至りました。第一次安倍政権が崩壊し、その不安は払拭されたと思っていたところ、第二次安倍政権が誕生し、「集団的自衛権行使容認」の閣議決定がなされてしまいました。このままでは、日本は戦前の軍国主義に逆戻りしてしまいます。ここで歯止めをかけなければなりません。それができるのは国民です。憲法を制定したのは国民であり、憲法を改正できるのも国民です。今回の閣議決定をなきものにするのができるのも国民です。安倍政権の暴走を抑えられるのも国民です。それをさせるのは、**国民の心**です。

「国を愛する心」を教育基本法に持ち込んだ^あ挙げ句、テレビで「いかなる事態にあっても、国民の命と平和な暮らしは首相である私が守り抜いていく」と恍惚の表情で話す安倍首相の姿を見て、約65年前の「チン オモウニ ワガ コウソ コウソウ」と得意満面で繰り返していたおじさんの顔が浮かんできました。そのような人に、平和を愛し、戦後69年間戦争で1人の国民も殺されず、1人の外国人も殺さなかった「**平和愛好国・日本**」、「**平和愛好人・日本人**」の心を変えられてはならないのです。そのような思いで、**第12巻 戦争の放棄（その12）『愛国心』**を発刊しました。

